

# 平成20年度

## (1) 全体の総括と体制

### ■個別事業が企画・試行された年

FM事業を現地で実際に推進していく年度となることから、「実施検討会」を「推進委員会」へと衣替えした他、個別事業を具体的に企画していくための体制も整えた。そして、度重なる検討を経て、上流地域でいくつかの事業を試行した。



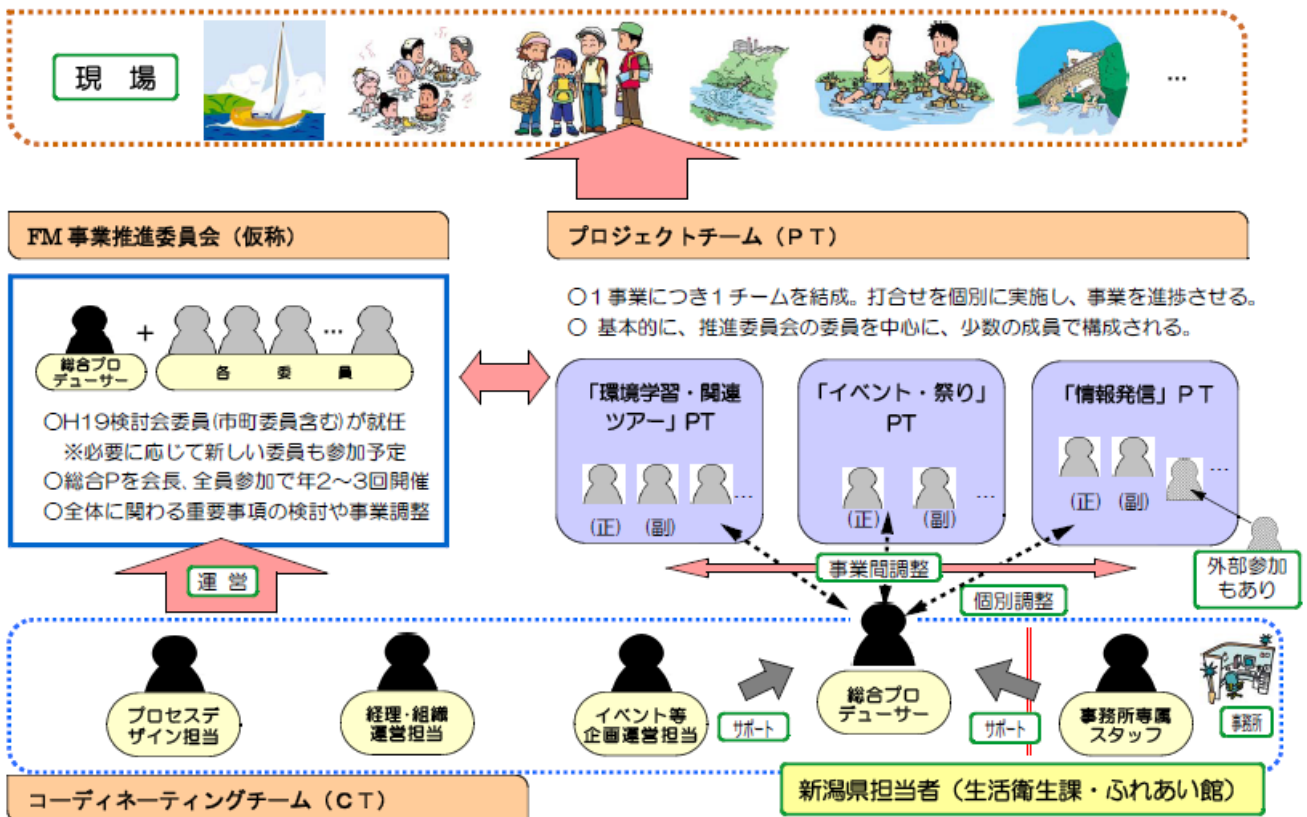
推進委員会の様子

### ■個別事業を企画・具体化するための体制づくり

平成19年度に検討した事業全体の理念や計画を基に、様々な個別事業を流域の現場で具体的に推進させていくため、平成20年10月、「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会」を開催し、多種多様な個別企画が提案された。

そこで、様々な個別事業を「イベント」「環境学習」「情報発信」の3分野に分類して、各分野ごとに「プロジェクトチーム」(PT)を結成した。以降、各PTにおいては、「もやい直し」の効果や実現可能性などの観点から、様々な個別事業を具体的にどう展開していくか、何度も会合を重ねつつ企画の検討や絞込みが進められた。

## 平成20年度 阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業 推進体制



## (2) 当該年度の成果や経緯など

### ■当該年度の所感 ～ 上流地域で「草倉銅山」に着目した理由

熊本県とは異なり、新潟水俣病の舞台は阿賀野川であり、発生地域は南北に細長いことから、被害状況や新潟水俣病の捉え方などは各地域でかなり異なっている。

特に、他の地域と比べて顕在的な被害者数が少ない上流域では、原因企業の昭和電工(株)鹿瀬工場が立地していた関係上、新潟水俣病のことを話題に出しにくい雰囲気根強く、過去に様々な取組が行われることもほとんどなかった。

そこで、FM事業では、これまで手付かずだった上流域から、あえて様々な事業に着手することにした。なぜなら、最も困難だと思われる地域で「もやい直し」を展開できれば、他の地域での進展にも希望が持てると考えたからである。

ただし、新潟水俣病を遠ざける意識が強い地域で、ほとんどの人がFM事業をご存知ない中、いきなり真正面から「もやい直し」に取り組んでみても、かえって警戒心を抱かれ、心を頑なにしてしまう恐れが大いにある。

そこで一見回り道だが、まずは阿賀町鹿瀬の地域資源である「草倉銅山」を活用した事業を試行してみるというステップを踏むことにした。

「草倉銅山」とは、地元の郷土史家などの間で根強い人気を誇る一方、実は日本の公害史にも隠れた因縁があるなど、「光と影」の両側面を併せ持った、魅力溢れる地域資源である。

つまり、FM事業では、いきなり新潟水俣病に取り組むより、まずは地元の人々がある程度共感しながらこの事業に参加・協力いただけるあり方を重視し、この地域資源に着目した。

### ■当該年度の成果

平成20年度の事業成果は下記のとおりである。

- 草倉談義(※草倉銅山の活用検討のための現地調査)
- 紙芝居「草倉銅山物語」制作
- 地域再発見講座「阿賀野川ものがたり」(第1回)開催
- 阿賀野川え～とこだより創刊準備号発行
- 阿賀野川え～とこだ!ブログ開設
- 資料整備への着手:草倉銅山関係資料、小竹コレクション



草倉銅山本山にて関係者と談義



草倉銅山選鉱場(明治) 提供:長谷川国一氏



紙芝居「草倉銅山物語」(こっこ制作)



地域再発見講座(第1回)の様子

## ■当該年度の事業経緯

平成20年度の事業経緯は下記のとおりである。

